

潮谷寺史料

提供 黒木豊文

(会員 佐伯市大手町)

一、浄修堂の創建と修造の記録

【解説】

六代藩主毛利高慶の正妻琨子は正徳四年（一七一四）九月二十九日に病死した。遺骸は江戸東善寺へ葬送、法号を源智院殿浄修了因大姉という。源智院の石碑を佐伯養賢寺に建立するため髪を送る。また高野山にも石碑を立て、ほかに潮谷寺の中に常念仏堂を菩提のため建立、名号法号は祐天大僧正より受け申し送った。

正徳五年（一七一五）五月、佐伯に着城した高慶は源智院の廟所である浄修堂の普請にかかり、本尊・仏具料として金二百疋を遣わした。源智院の一周期の法事中は家中の者の殺生・鳴り物を禁止、「浄修堂縁起」一冊を作る。

同年十月二十六日、

一 浄修堂の建立について、以前寄附した米三十五石の判物のことは、潮谷寺の願いの趣旨を了解し、すぐに今日判物を遣わした。左のとおり。

源智院の菩提のため、この寺に浄修堂を建立し、昼夜間断なく念仏を唱えることを行うこと。

よつて、米三十五石をこの堂へ寄附するものである。

周防守（居判）

正徳五年二月二十五日※この月日は念仏法会の日なので、このとおりに記させた。

潮谷寺明誓へ

一 先ごろ潮谷寺へ申し付けて出来上がった浄修堂略記の奥書を、このたび願ってきたので、左のとおりに記して遣わした。

この一冊は、住僧明誓の記につき、永く浄修堂へ納め置くものである。

毛利周防守（居判）

正徳五年十月二十五日

（以上「温故知新録」高慶公御手日記より抜粋）

江戸増上寺よりの書簡①(正徳五年二月・潮谷寺蔵)

【書き下し】

尚以てこの度の段、御城主様その寺「常念仏」御企ての儀、尋常にその寺貞実の功勤故と感応斜めならず存じ候。弥いよいよ以てこの段、丹精を抽ぬかずべく候。

己上

一簡、執達せしめ候。今度その寺において源智院殿菩提を修すため御城主毛利周防守殿「不断念仏」の執行を御企て、これより御城主の御願、且又その寺現住へ旧来の由緒旁これを以て営み、顕誉大僧正が「常念仏」を御開闢成され遣わされ候間、永代断つことなく終世法長時の勤行これ有るべく候。恐々謹言

増上寺役者 安養院(花押)

二月二十七日

利天(花押)

佐伯鶴屋 潮谷寺 明誉和尚

江戸増上寺よりの書簡②(正徳五年四月・潮谷寺蔵)

【書き下し】

追啓、この度御式子下向ニ付き対面を遂げ、その御地の儀共承り致し候て悦入申し候。且又修学の儀



浄修堂扁額 (顕誉大僧正筆)



浄修堂御内仏



成程差しより得人情様に申し合わすべく候。己一箇啓上致し候。弥その境、御堅固に御出寺成さるべきと珍重の御事と存じ候。先頃も預け享され候処、〇〇延引仕り候。然らば御念仏も段々繁昌にて有難く存じせしめ候。殊更、寶藏の御普請も成就致しその上、周防守殿御立所にも成られ御怡情、御〇〇能く御座候段、御寺のため、その上一宗の外聞にこれ過ぎず候。且又内々仰せ聞かれ候。顯譽大僧正板木御座候の儀、重ねてより預かり留め御座候へ共、差留め遣わし申さず候へ共、その寺儀念仏開闢の訳御座候につき、利天和尚と申し合ひ兩人にて達して奉願。この度一万幅申請遣わし候間、御請取り成るべく候。何とぞ念仏の資料にも罷り成る様にと申すこと御座候。去年中も速路品々参度の預け状候へ共、御聞きの通り事多く罷り過ぎ候て趣翰も申し入れず尚以て定め候。その段にてこの傳を以て御宥免下さるべく候。猶期後喜びの時に候。恐惶謹言

四月八日

潮谷教寺様

安養院

彰誓(花押)



六代高慶と琨子夫人の位牌

浄修堂棟札①

正徳五乙未祀孟陬 造主 藤原高慶公

不断念佛梵宇一區建立常然無衰無変

奉行職 桑原半右衛門尉正頼
修役 片岡傳左衛門 著廣

正徳五年歳乙未昏、當郡鶴谷城主毛利周防守藤原高慶公、植於去冬十月、亡室／源智院殿、之対馬国司平義貞公女、不幸而深悟浮世無頼于黄泉旅追薦、當院北隅造當於梵宇一／區、彫刻於新弥陀及觀勢三佛。大守自法諱源林院殿前防州大守本譽覺山檀忠大居士。／亡室法號源智院殿浄修了因大師。使是増上寺前大僧正祐天昼之而納乎

本尊之白毫／與再幸間安置乎淨業夫轉道場企不斷念佛別行、且資糧三十五斛寄附之飲口称／三昧連綿而期童之號者也。教祖說宜趣備後不朽已焉。

不斷念佛開闢導師傳灯五十九代

當寺第十一世圓蓮社明譽称誌（花押）

淨修堂棟札②

文政元戊寅年十一月 造主 藤原高翰公

不斷念佛梵宇一區建立常然無衰無變

當寺第十八主 功蓮社合譽真潤（花押）

右梵宇本尊阿弥陀佛並觀音勢至、之正德五乙未年、城主高慶公亡室／源智院殿追福所造作也。即使僧徒數人無晝夜行不斷念佛、依之年々附米三十五石爲之資糧。右之委曲旧記既具悉焉、故不復多言也。于時星霜、梁柱殆將及朽蠹、是以今茲文政元戊寅初秋有命、使作事奉行関弥市左衛／門誠厚・高妻嘉太夫行貞改作之。方間之制度、基石之大類、因雖仍旧貫、而用材殊撰堅剛矣、冀永不壞敗也。亦臺下之厚德亡主之冥福也。同十一月吉辰、功成因記之以懸梁上云。

淨修堂棟札③

聖主天中天 當城主毛利豊前守藤原朝臣高翰敬白

迦陵頻伽聲

奉行 関弥市左衛門誠厚

高妻嘉太夫 行貞

卍 奉造立淨修御佛殿

哀愍衆生者

我等今敬禮

工匠 久貝義物兵衛定己

【裏】棟上 文政改元歲寅十一月十日

淨修堂棟札④

正德末年淨修堂……寬政七卯年凡及八十年

修理之衆 官命左記

一棟直塚・野隅・野桶・小舞、裏側瓦座、惣新規化粧。
裏板挽鋸。

一堂後側扣柱四本、筋違新規。

一同所部板換修復。

一御拜柱・惣盤・箱壇・縁板、惣取替。

一露盤瓦換、内楠板箱掛外……之瓦針金留。

一廊下積年及破損、今年惣建替。

一御休息間屋根惣修復、柱根搥・部板換取替。

一 智寛院殿屋根惣修復……………
 一同所屋根庇共二箱屏新規。
 一 佛間惣片附新規。
 右之外所々修復之仰付者也

寛政七卯三月

御作事奉行 片岡勘太夫・尾間仙左衛門

下吏 橋本喜平治

棟梁 久貝権四郎・吉田庄右衛門

御役小人 孫七・幾平

大工 船頭町清助・船頭町柳八・内町兼蔵

木挽 塩屋村大蔵・上野村染蔵・下野村繁八

左官 久部村治三輔・宇八・古市村喜三郎

瓦師 戸穴村音助

切畑村民八・長蔵

二、青陽の慶事に関する書簡集

※潮谷寺よりの歳首の挨拶状に対する返書である。

文面は大同小異であるので以下署名（花押）のみを紹介する。

◎六代毛利周防守高慶代（二通）

※幼名助十郎↓高定↓高寛↓高慶、寛保三年（一七四三）没。

白陽の慶事念

六代高慶

欣然の至りに候

其許恙なきの由

な お期後喜びの節

に候。不宣謹言

毛利周防守

二月三日 高定（花押）

潮谷寺

【書き下し】

青陽の慶事のため、戸倉六郎兵衛の所まで来翰の趣、欣然の至りに候。其許恙なきの由、珍重に候。なお期後喜びの節に候。不宣謹言

毛利周防守

二月三日 高定（花押）

潮谷寺

毛利周防守

◎七代毛利周防守高丘代（四通）

※幼名寅太郎→徳高→高丘、宝曆十年（一七六〇）没。



◎八代毛利和泉守高標代（六通）

※幼名彦三郎→高代→高猷→高標、享和元年（一八一）没。



為新法之始
 華煥金葉彌能
 彌法清淨出如弄
 之為不愆恭森在
 不接無意致踰事
 之為勿若法高為
 出教如新出此為
 恐懼該云

九月廿日



山田邊浪江

◎六代高慶八男山野辺浪江（五通）

※幼名源十郎→浪江→山野辺義方（養子）→森裝一
 号扶搖公子、天明六年（1786）没。